

養殖アカモクの出荷及び種取り作業が始まりました

今年の養殖アカモクの水揚げが、宮津市養老地区、舞鶴湾口部で 2 月 13 日から始まりました。今年も昨年と同様に生育が順調で、収穫量は過去最大の 7 トンと見込まれ、来年は 15 トンの生産を目指します。当センターでは、来年度のアカモク種苗生産用に種（幼胚）取り作業を実施し、約 5 万個の種苗が生産可能な量を採種しました。種は種苗生産を開始する 7 月まで冷蔵庫で大切に保管します。

一方、2 月 28 日にはNHKからアカモク養殖についての取材を受け、アカモクを養殖するに至った経緯や種苗生産技術について当センター職員が説明しました。これを契機として、府内産養殖アカモクの消費拡大に合わせた生産を更に進めていきます。



アカモクの種 約 0.3mm (倍率 20 倍)



NHKによる取材